

基調講演2

区民でつくる便利で楽しいバス交通

猪井 博登氏（大阪大学大学院工学研究科 助教）

• バスの問題は皆の問題

移動、お出かけが出来なければ病院に行けず、買い物も行けなくなり、健康に生きていく事が難しくなります。また、人はただ健康に生きるというだけではなく、人と集まって談笑したり、学校に行き勉強したりという事も大切です。その為には移動が欠かせません。

移動が欠けてしまうと、健康に生きていくことが難しくなるだけでなく社会にも参加できません。バスの問題でよく取り上げられるのは高齢者の方の例ですが、実は交通の問題というのは府民の皆さんの問題なのです。小さいお子様を含めて、公共交通が無くなると全ての方が困ってしまいます。

• 地域を走るバスの魅力

バスの魅力の一つは、乗客同士で中の空間を共有出来る所にあると思います。また、一つの公共物を皆で共有するという事は、そこで話し合いが出来、協力が生まれるという事です。ですから高齢の方だけでなく、小さなお子様が経験する事によって公共心が育まれます。一つのものを一緒に使うという事には少し不便な面もありますが、得られるものもあると思います。

• 外出頻度の減少とコミュニティの崩壊

大阪府全体で言うと、外出の回数は減っています。外出率も減ってきています。平日の外出では10年前よりも若い層の外出率が減っています。しかし高齢の方は元気になられたのか外出の機会が増えていて良い傾向です。休日では若者の外出率は10年前と5年前のデータを比べてみると、家に籠もる比率が増えていきます。アメリカでは、車を使うまちづくりを進めた為、人と話をしなくなったので、コミュニティや地域が潰れてしまったのではないかとされています。日本も今やその状態になりかける入り口に立っているのではないかと思います。

• 公共交通の負のスパイラル

堺の今の交通の状況を見ますと、バスが一番利用されていたのは昭和45年頃の事ですが、今は当時の4割位まで落ち込んでいます。車を使うことで、バスの利用者が減り、便数を減らそう、料金を値上げしよう、となります。利用者も値上げされる位なら車に乗ろう、とバス離れし、悪循環になってしまった30年間ではないかと思います。

• 交通は誰がつくるのか

では、交通をつくる際、誰がつくらないといけないのかということです。皆さんが必要としておられる交通は「地域の中の交通」です。また、民営バス会社の努力で出来る部分というのは限られていますので、行政の支援が必要になりますが、地域に沿ったものをつくろうと思うとやはり皆さんと一緒に考えていただく必要があります、最終的にはそれがまちづくりに繋がると考えています。

• 美原区の取り組み

美原区では、平成17年に4つの路線が走り始めました。この新しい4つの路線が走ることによって、乗合タクシーも走り始めましたので、交通が無い、という方は減りました。

折角走ったこのバスですが、それでも当然儲かりません。そこで自治会の連合協議会と一緒に、バス利用を増やしましょうという取り組みを5年前から行っています。取り組みには効果が出て利用者は確かに増えたのですが、収支率としては厳しい状況です。

生きていくためにはおでかけをする等、皆で支えていかなければなりません。行政や事業者だけでは不十分です。地域に本当に必要な交通手段として、是非皆さんもこのような活動にご協力いただき、暮らしやすく楽しい美原区にしていきたいと思っています。